



今日のトピック 2017年の為替市場の振り返り

米ドル/円相場は円高だが、総じて安定した推移

ポイント1 先進国通貨は円安傾向 米ドル/円は円高

■米ドル/円は、1月上旬に116円～118円台で推移した後、概ね108円～114円台と年初よりも円高で推移しました。米国景気が底堅く推移し、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げが米ドル高要因となる一方、日米の貿易不均衡是正を求める米国の政治的圧力や米長期金利の落ち着きがドルの上値を抑制しました。

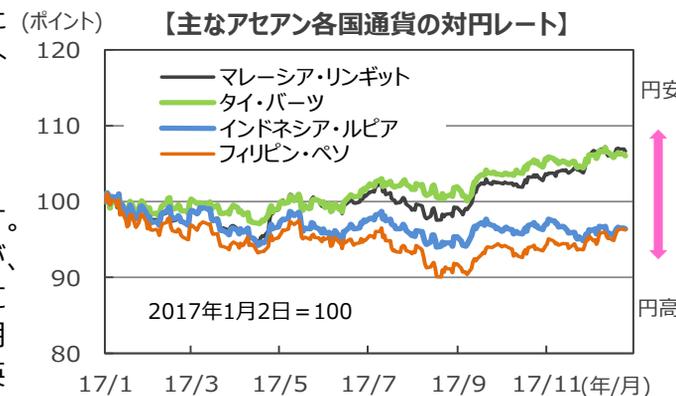
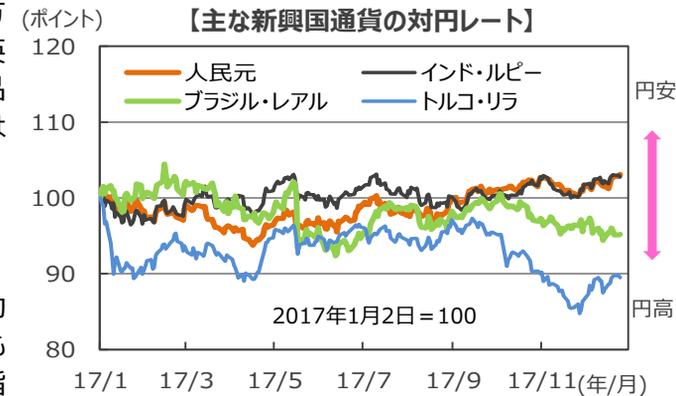
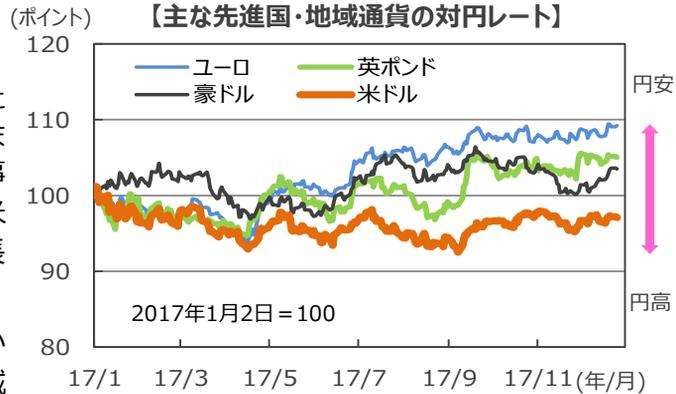
■ユーロ/円は、各国の選挙を控え欧州政治の不透明感から4月までユーロ安で推移しました。5月以降は良好な域内経済や欧州中央銀行（ECB）の金融緩和縮小方針が支援材料となり、緩やかなユーロ高となりました。英ポンドも対円で英ポンド高となりました。豪ドル/円は商品市況の影響を受けて上下しましたが、11月下旬以降は資源価格の持ち直しから、対円で豪ドル高となりました。

ポイント2 新興国は総じて安定推移 二極化も小幅なものにとどまる

■新興国では対円で二極化が進みましたが、緩やかな変動にとどまりました。インド・ルピーの変動性は非常に小さいものでしたが、他のアジア通貨も年初の水準を100とした指数で90～110に収まるなど、総じてアジア通貨は安定した推移でした。こうした中、利上げが遅れ、政情が悪化したトルコ・リラの変動率は高くなりました。

今後の展開 落ち着いた推移を想定

■2018年の為替市場は、落ち着いた推移が想定されます。FRB、ECBは金融政策の正常化を進めていく方針ですが、インフレ懸念が小さいため、為替市場の変動性が極端に高くなる可能性は低そうです。ただ、地政学リスク（北朝鮮問題や中東情勢等）は引き続き懸念されるほか、英国のEU離脱交渉や米中間選挙などの政治リスクには注意が必要となりそうです。



(注) データは2017年1月2日～2017年12月26日。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年12月27日 2017年の世界債券市場の振り返り 2017年12月26日 2017年の原油市場の振り返り

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。